



子ども大学学生新聞

第35号
子ども大学
かわごえ新聞部

「自然の神秘と音楽」を学ぶ

漢那先生 時間割を音で表す楽しい授業



二〇一七年一月七日(土)、尚美学園

大学北オーデトリウムで、尚美学園大
学専任講師の漢那拓也先生が「自然の神
秘と音楽」というテーマで講義を行いま
した。「目では見えないものを『音で感
じる』プログラム」です。出席者は四年
生二人、五年生三九人、六年生一六人
の計七十七人でした。



漢那先生はまず、自分の職業について
話されました。作曲家、プロデューサー、
サウンドクリエイター、マネージャー、
レコーディ
ングディレ
クター、プ
ログラマー
と、様々な
方向から音
楽とかかわ
っている
そうです。
その仕事の
内容の説明
もありまし

た。

授業では、実際の音楽を流しながら、
昔の音楽が自然と非常に関わり合いが深
かったことを話されました。昔は、自然
界の出来事は、神が起こしていると考え
られていたため、神の怒りをしずめたり、
神と仲良くしようとして、音楽がつくら
れたそうです。音楽の始まりは、神にさ
さげるためだったということです。(築
城将真記者 牛子小5年)

畑の微生物を曲にする

二時間目は、はじめに「音楽を数字で
表してみます」と言われました。つぎに
音楽の三要素について説明されました。
一つ目は「リズム」。リズムとは音のく
りかえしです。二つ目は「メロディー」。
これは、音が高くなったり低くなったり
することです。三つ目は「ハーモニー」
です。ハーモニーとは、音の重なりです。
それぞれ数字で表すことを学びました。
次に、学校の授業の時間割表を音にし
ることにしました。「みんなが好きな
授業をハーモニーにしてみよう」と、学

生に好きな授業について手をあげさせて、
教科ごとに音をつけました。

最後に、昨年、子ども大学で授業をし
てくださった横山和成先生のデータをも
とに、畑の中にいる微生物を音楽にする
ことをされました。元気な微生物は、は
げしく大きい音、あまり元気でない生物
物は、静かで小さな音で表現されました。

そして、「私が作った曲を聞いてくだ
さい」と、二曲演奏されました。一曲目
は、肥料をあまり与えずに育った畑、二
曲目は、肥料をたくさん与えて育った畑
の曲でした。二曲目の方が、はげしくつ
たです。(奈村晴冬記者 高階小5年)

☆漢那先生にインタビュー

Q 小学生のとき、どのような夢があり
ましたか。

A サッカー選手になりたかった。J
リーグができたからです。

Q なぜ音楽にきょうみをもったので
すか。

A 子どものとき、音楽がいやで、みん
なから「おんち」といわれたけれど、
ゲームが好きで、ゲームの音楽をつ
くろうと思っていました。中学三年
生のときにバンドでギターをやって
いて、本格的に音楽を始めました。

Q 大学で作曲家の富田勲先生に習っ
たそうですが、先生は漢那先生に
とって、どのような存在でしたか。

A 一番はめてもらい、それが音楽を作
るきっかけになりました。自分が生
きる意味をもらいました。

Q 授業で学生に伝えたかったことは？
音楽は芸術で、なくても生きていけ
ます。けれど、音楽があれば、もっ

と幸せに過ごせます。そのことを
知ってもらいたかった。

(石井結衣記者 霞ヶ関南小6年、秋
山花那記者 鶴ヶ島一小5年)

☆記者の授業感想

◇中島七虹記者 中央小6年 データ
を音楽にして数字として考えるというの
は、すごく画期的だと思いました。どの
音を組み合わせるかによって、感じ方が
変わるなんて、すごいと思いました。

◇石井結衣記者 霞ヶ関南小6年 私
は音楽にあまり興味を持っていません
でしたが、楽器で小鳥やアヒル、ネコのま
ねをしてお話が出るなんてビックリし
ました。作曲家が自然を感じ取り演奏を
しても、聞いている人と感じ方が違うと
いうことが、「夏」を曲にしたものを聞
いてみて、人それぞれの感じ方が違っ
てが分かりました。

◇秋山花那記者 鶴ヶ島一小5年 自
然と音楽が関係あることを知りました。
ヴィヴァルディ作曲の「四季・夏」は暗
い曲で、ヴィヴァルディさんの感じた夏
は暗くて怖かったのだなと思いました。
また、プロコフィエフ作曲の「ピーター
と狼」は、動物の鳴き声を楽器で表現し
ていて、かわいらしい声やこわい声が生
かされていて、すごいなと思いました。

◇奈村晴冬記者 高階小5年 び生物
をもとにした音楽に使ったデータの量に
びっくりしました。

◇篠崎仙太郎記者 中央小6年 びせ
い物のような小さい生き物でも、音楽を
奏でられるのだなと思いました。また、
元々の土や、農薬などの種類で音楽が
違って、びっくりしました。